

ファイルサーバー向け Active Backup for Business 管理者 ガイド

Active Backup for Business 2.5.0を前提としています



目次

はじめに	2
本ガイドについて	2
想定読者	2
Active Backup for Businessとは？	2
機能と管理ツール	4
バックアップと復元機能	4
バックアップ管理	5
プランニングと準備	6
条件	6
検討事項と制限事項	6
バックアップのヒント	7
バックアップ設定	8
ファイル サーバーのバックアップ	8
バックアップタスクの作成	8
バックアップ タスクの管理	11
復元ガイド	13
復元オプション	13
ファイル サーバー データの復元	13
ベストプラクティス	15
リモート バックアップのコピーを保持し、再リンクする	15
詳細情報	17
関連の記事	17
ソフトウェア仕様	17
その他のリソース	17

はじめに

本ガイドについて

本ガイドでは、Active Backup for Businessの概要を理解していただいたから、バックアップ タスクの初期セットアップの実施を説明し、そして復元に関する情報を提供します。

想定読者

本ガイドは、SMBまたはrsyncファイル サーバーをバックアップをするためにActive Backup for Businessを使ってみたいという方向けです。

Active Backup for Businessとは？

Synologyのオールインワン型商用データ保護ソリューションである**Active Backup for Business (ABB)**は、数々の受賞に輝くDSMオペレーティングシステムをベースにしています。ABBは、仮想マシン、物理サーバー、ファイル サーバー、パーソナルコンピューターなど、さまざまなIT環境にわたるデータ保護を一元化します。管理者は、希望する保護プランを、ABBの一元化された管理コンソールを通して自分一人で展開できます。

ABBはまた、広範囲のバックアップ オプションおよび復元ツールのみならず、多くのオプション技術や安全に関する機能を提供します。

Active Backup for Business使う理由

- お客様のワンストップ バックアップ ソリューション – バックアップ環境内のすべてが対応しているかどうかの確認は簡単ではありません。特に考慮すべき要因が多い場合には、ABBは、お使いのSynology NASにオールインワンのソリューションを与えることで確認がシンプルに行えます。
- スマートストレージ – ABBは、クロスプラットフォーム、クロスデバイス、クロスバージョンでの重複排除を組み込んだ設計になっており、バックアップ時間が短縮され、ストレージの利用効率が向上します。(対応モデルを見る)。
- 制約のない拡張性 – デバイスやデータが増加していますか？問題ありません。ABBでは、デバイスやデータの数は無制限、ライセンスフリーで保護ができます。
- 一元管理 – ABBの直感的なウェブベースのポータルを利用することで、複数プラットフォームにまたがるバックアップタスクやデバイスの管理にかかるIT作業者の負担を無くします。
- 統合サポート – なにか問題が発生した場合、それがハードウェアかソフトウェア関連かいずれであっても、Synologyのテクニカルサポートはいつでもご支援ができ、異なるプロバイダーからの支援を探すのに必要な時間と労力を減らせます。

機能と管理ツール

バックアップと復元機能

SMBおよびrsyncのサポート

Active Backup for Businessは、WindowsのSMBやLinuxデバイスのrsyncなどの共通プロトコルによるファイルサーバーのバックアップをサポートし、エージェントをインストールする必要なくバックアップを容易にデプロイできるようになります。

SMBサーバーの場合

FSRVP (File Server Remote VSS Protocol) 統合は、SMBサーバーのバックアップに一貫性をもたせる効果があります。VSSをWindowsサーバーで有効にすると、Active Backup for Businessが、VSSを有効にしたリモートSMBファイルシェア上のデータを保存しているサーバー アプリケーションのシャドウコピーを作成できます。ファイル バックアップに加えて、Windows ACLをバックアップすることもでき、それによって簡単にファイルとアクセスコントロールリストを同時に復元できるようになります。

rsyncサーバーの場合

ブロックレベル転送、暗号化、圧縮、帯域コントロールを有効にし、rsyncサーバーバックアップのための安全で効率的な転送が可能になります。ファイルバックアップに加えて、Linux POSIX ACLもバックアップ対象になります。

バックアップ モード

それぞれの組織のデータ保護、保持、監査ポリシーの要件に合致するように、ファイル サーバー バックアップに対する3つのバックアップモードがあります。

- **マルチバージョン**：各バックアップに対して新しいバージョンを作成することによって複数の復元ポイントが提供され、以前のどの時点からでもファイルを容易に復元できるようになります。
- **ミラー**：ソースに加えられた変更に基づいてターゲットのバックアップを上書きするため、もっとも最近のバージョンのファイルだけが必要なユーザーに適しています。
- **増分**：ターゲットデバイスで削除されたファイルは保持しながら、バックアップは新しく追加された、および変更されたファイルによって上書きされるため、アーカイブ目的に最適です。

増分バックアップ

増分バックアップは、バックアップ先に保存される重複排除されたデータの量だけでなく、各バックアップで転送されるデータ量を減らすバックアップ機能です。これは、変更履歴を記録し、変更あるいは新しいデータだけが転送先に追加されます。

バックアップ管理

Active Backup for Business Portal

Active Backup for Business Portalは、ABBのアフィリエイト復元ポータルです。このポータルにより、管理者および管理者によって任命されたエンドユーザーが、バックアップされたデータにアクセス、閲覧、ダウンロード、および復元することができますようになります。

このツールは、Active Backup for Businessパッケージのインストール中に自動的にインストールされます。ポータルの操作の仕方や、復元の実行方法、およびその他の設定は、[ABBポータルのヘルプ](#)を参照してください。

プランニングと準備

条件

詳細な情報は、「[Active Backup for Businessの全仕様](#)」を参照してください。

NASシステム要件

推奨事項は、「[Active Backup for Businessを実行する適切なNASの選び方](#)」を参照してください。

アイテム	条件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• DSM 7.0 以降 (ABB 2.2.0 以降)• DSM 6.2 以降 (ABB 2.1.0 以降)• DSM 6.1.7 以降 (ABB 2.0.4 以降)
CPUアーキテクチャ	64 ビット x86 (x64)
システム メモリ	理想的なバックアップ パフォーマンスのため 4GB RAMを推奨
ファイル システム	Btrfs

サポートされるシステム

バックアップタイプ	システム/バージョン
ファイルサーバー	<ul style="list-style-type: none">• SMBプロトコル• rsync 3.0以降

バックアップと復元に関する要件の全一覧は、[要件と制限事項](#)をご参照ください。

検討事項と制限事項

NAS

- バックアップ性能を最大化するためには、DSMで同時に実行するパッケージの数が多すぎないようにしてください。
- バックアップタスクを実行するためには、バックアップ先とパッケージがインストールされているボリュームの両方に少なくとも8 GBの空きスペースを確保してください。

バックアップクライアント (ファイルサーバー)

- ソース ファイル サーバーでファイル共有プロトコルが、SMB (Windows用) またはrsync (Linux用) のいずれかが有効になっていることを確認してください。
- ファイル サーバーを追加するために使用されているアカウントに、バックアップしようとするフォルダーへのアクセス権があることを確認してください。

バックアップのヒント

- ソース ファイル サーバーからのものでないファイルやその他のデータを保存するためにバックアップ ディスティネーション フォルダを使用しないでください。バックアップ中、ディレクトリとバックアップ ソースを比較している時に、ソース側に見つからないファイルやデータは削除されます。
- **マルチ バージョン モード**だけが、バックアップタスクのバックアップ バージョンをいくつか作成します。その他の2つのバックアップモードは、バックアップタスクのバージョンを1つだけ保持します。
- お使いのABBバージョンで**バックアップ対象のデバイスがサポートされている**ことを確認してください。
- マルチ バージョン タスク上だけで、バックアップが過大な領域をとらないように、古いバックアップ バージョンが削除されるよう、**保持ポリシー**を設定してください。
- データの通常のバックアップが維持されるよう、**バックアップ スケジュール**を設定してください。
- ユーザーが必要に応じてバックアップおよび復元の個別ファイルまたは全体を表示できるよう、**Active Backup for Business Portal**へのアクセスを許可してください。
- **Hyper Backup**または**Snapshot Replication**を用いて、**3-2-1 バックアップ ルール** (3つのバックアップ、2つの異なるストレージメディア、1箇所はオフサイト) を導入することで、2つ目の保護レイヤを追加してください。

バックアップ設定

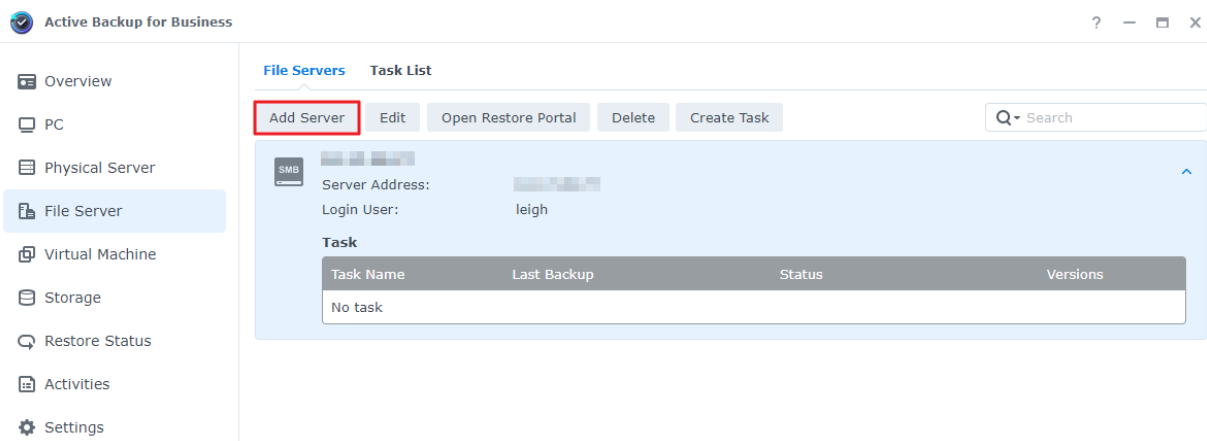
次のセクションは、ファイル サーバーの追加、新しいバックアップ タスクの作成と実行、オプション および設定の実施についての手順をご説明します。

ファイル サーバーのバックアップ

ファイル サーバーを追加

ファイル サーバーのバックアップタスクを作成する前に、ファイル サーバーに接続する必要があります。

1. DSM で **[Active Backup for Business]** > **[ファイル サーバー]** > **[ファイル サーバー]** の順に進んで、**[サーバーを追加]** をクリックします。



2. ウィザードの指示に従い、サーバーの追加を完了してください。

注意：

- SMBサーバーで、**[マイ ネットワーク プレース]** が有効になっていることを確認してください。
- [権限設定](#)が適切に構成されていることを確かめてください。

バックアップタスクの作成

1. Active Backup for Businessで、**[ファイル サーバー]** > **[ファイル サーバー]** に進みます。
2. バックアップしようとするファイル サーバーを選択し、**[タスクを作成]** をクリックします。

3. ウィザードにある手順に従い、バックアップモード、転送しようとするフォルダー、保持ポリシーを設定します。

バックアップモードを選択

- **マルチバージョン**：タスクが実行されるたびに、ソースに加えられた変更を含む新しいバージョンが、バックアップ先の新しいフォルダに全体がコピーされます。
- **ミラー**：毎回タスクを実行すると、ソース フォルダで行われた変更内容すべてが、コピー先にコピーされ、既存ファイルを上書きし、これにより、コピー先のフォルダが完全なミラー コピーとなります。
- **増分**：タスクが実行されるたびに、ソース上で新しく追加されたファイルや変更されたファイルがコピー先にコピーされ、ファイルの以前のバージョンが上書きされます。

注意：

- ソースがLinuxの場合は、セットアップの後半でブロック転送を設定できます。

各バックアップモードのバックアップファイルのバリエーションに関する詳細は、下の表を参照してください。

Source files	Multi-version mode	Mirroring mode	Incremental mode
1st Backup: A B	ver.1 A B	A B	A B
2nd Backup: A B C	ver.1 A B ver.2 A B C	A B C	A B C
3rd Backup: A B C D E	ver.1 A B ver.2 A B C ver.3 A C D E	A C D E	A B C D E
4th Backup: A C D E	ver.1 A B ver.2 A B C ver.3 A C D E ver.4 A E	A E	A B C D E

タスク設定

以下の状態を使用して転送の対象を指定します。

- このフォルダーにおける下位のフォルダーおよびファイルはバックアップされません。
- このフォルダーより下位レベルのフォルダーおよびファイルがすべてバックアップされます。
- このフォルダーより下位レベルの選択されたフォルダーとファイルのみがバックアップされます。
- このフォルダーのファイルが、選択された下位レベルのフォルダーと共にバックアップされます。

[rsyncバックアップ] を設定する場合には、[帯域幅] を設定するオプションや、[圧縮] および [ブロック転送] を有効化するオプションがあります。

バックアップ モードとして **[複数のバージョン]** を選択した場合、不要なバージョンを自動的に削除し、空き容量を開放することで、バックアップ バージョンを管理するための **[保持ポリシー]** をセットアップするオプションが利用できます。

保持ポリシーを選択

- バックアップのバージョンをすべて保存、保存するバージョンの数を制限、あるいはスケジュールに従って特定のバージョンを保持、のいずれかを選べます。
- 毎日、毎週、毎月あるいは毎年の最新のバージョンを保持するなど、バックアップ バージョンを保存するルールを設定することができます。保持ポリシーの編集は、**[Active Backup for Business]** > **[ファイルサーバー]** > **[タスク リスト]** > (タスクを選択し) > **[編集]** > **[保持]** > **[高度な保持ポリシー]** > **[ルールを設定]** で編集できます。
- [最新の...バージョンのみを保持]** オプションを選択すると、設定された時間間隔にかかわらず特定数のバージョンが保存されます。特定の時間範囲複数のバックアップ バージョンがある場合は、最新のものだけが保存されます。たとえば、1時間ごとに実行されるバックアップ タスクに対して、「1」日の**最新バージョンを保持**に設定した場合、23時にバックアップされたバージョンのみが保持されます。
- ひとつのバージョンが、一度に複数の保持ルールに適合することも可能です。たとえば、ひとつのバージョンが週次保持ルールと毎日保持ルールの両方によって同時に保持されることが可能です。高度な保持ポリシーは、**長期保持ポリシー (GFS)** を採用します。

Set Rules X

Apply the following rules to keep backup versions. One version can meet multiple rules at the same time. [Learn more](#)

<input checked="" type="checkbox"/> Keep all versions for	<input type="text" value="1"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the day for	<input type="text" value="7"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the week for	<input type="text" value="4"/> weeks
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the month for	<input type="text" value="12"/> months
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the year for	<input type="text" value="3"/> years

The system will ensure a certain number of latest versions are kept before applying the retention rules above.

Number of latest versions to keep	<input type="text" value="10"/> versions
-----------------------------------	--

Cancel OK

注意：

- 以下の状況下では、ファイルはバックアップされません。
 - ファイルまたはフォルダーのパスが4096文字を超えている。
 - ファイル名またはフォルダー名が255文字を超えている、それが「.」か「..」である、または@ActiveBackupまたはtarget.dbを含んでいる。
 - ファイル/フォルダーが暗号化された共有フォルダ内にあり、135文字を超える名前を持っている。
- **SMBバックアップ**は、Microsoftアカウントまたは[接合ポイント](#)のバックアップはサポートしません。
- **SMBバックアップ**は、データの整合性を保つための**Windows Volume Shadow Copy Service (VSS)**の使用に対応しています。Windows VSSは、Windows Server 2012以降でサポートされています。[VSSがWindowsサーバーで有効になっている](#)場合、Active Backup for Businessは、リモートSMBファイルシェア上のデータを保存できる、VSSを有効にしているサーバーアプリケーションのボリューム シャドウコピーを作成できます。
- 管理共有フォルダー (例えば、C\$、D\$) は、デフォルトではWindows VSSをサポートしていません。
- SSH キーによる認証にはSSH キーが必要です。サポートされるキー タイプには、RSA2、DSA、ECDSA、ED25519が含まれます。パスフレーズが必要なRSA1キーとSSHキーはサポートされていません。

設定を適用

1. バックアップ設定を確定し、**[適用]** をクリックします。ポップアップウィンドウが表示されます。
2. すぐにバックアップを実行したい場合は、**[はい]** をクリックします。タスクを後で実行したい場合は、**タスクリスト**に進み、タスクを選択してから、**[バックアップ]** をクリックしてください。

バックアップ タスクの管理

すべての既存のタスクが **[Active Backup for Business] > [ファイルサーバー] > [タスクリスト]** に表示されます。

バックアップ タスクの編集または削除

タスクを個々に、または同時に編集するには、1つまたは複数のタスクを選択し (Ctrl + 左クリック)、**[編集]** をクリックします。

バックアップ タスクを削除するには、対応するタスクリストで1つ以上のタスクを選択してください。これを行うとバックアップ タスクおよびその設定が削除されますが、バックアップ データは削除され

ません。

詳細




ソース、実行時間、持続期間、バックアップのログ時間など、タスクのステータスおよびログについての情報を見るには、タスクを選択し、[詳細] をクリックします。

バージョン

作成のステータスおよび時間などバックアップされたバージョンの情報を見るには、タスクを選択して [バージョン] をクリックします。また、バックアップされたデータを閲覧するにはフォルダーアイコンをクリックします。

Backup Version Information

×

	Time of creation	End Time	Backup Status	
	05/03/2021 15:17:03	05/03/2021 15:17:05	Successful	 

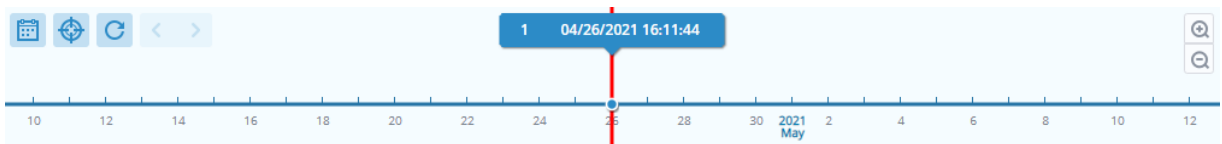
復元ガイド

復元オプション

細かい (ファイルまたはフォルダ レベル) 復元: バックアップ バージョンを選ぶか、あるいはActive Backup for Business Portalで復元用のファイルまたはフォルダを選択し、元の位置に自動的に復元するか、異なるデバイスか位置にデータをダウンロードします。DSMのコントロールパネルで、ユーザーに復元またはダウンロードの権限を与えることができます。

ファイル サーバー データの復元

1. [Active Backup for Business] > [ファイル サーバー] で、タスクを選択し、[復元ポータルを開く] をクリックします。
2. ページの上部の [ロールを表示] の下で、適切な復元権限を持ったユーザーを選んでください。
3. タスクの下で、ファイルの復元先または復元対象のソース デバイスを確認してください。
4. 復元するフォルダまたはファイルを選択します。
5. ページ下部のスライダーを使用して、フォルダまたはファイルを復元するバックアップ バージョンを選択し、次にファイル エクスプローラーでフォルダ構造をクリックスルーし、ディレクトリまたはファイルを選択します。



6. データの [復元] または [ダウンロード] を選択してください。[復元] を選択した場合、バックアップ エージェントはファイルまたはフォルダをダウンロードし、デバイス上の指定された位置にそれらに戻します。また、関連するチェックボックスにチェックを入れることにより、復元中に同じ名前を持つファイルをスキップできます。[ダウンロード] を選択すると、選択されたファイルが、ブラウザ経由で選択されたダウンロード場所へダウンロードされます。

右上隅の復元タスク アイコンのクリックにより、復元の進行を見ることができます。

Device	Task Name	Restore ver.	Source	Destination	Status	Elapsed Time
10.17.2.20	FS 1	05/03/2021 1...	/123	/123	<div style="width: 100%;"></div>	00:00:00:03

注意：

- Microsoft SQLまたはExchange Serverをバックアップし、復元する方法の詳細は、それぞれのチュートリアルを参照してください。
 - [Microsoft SQL Serverのバックアップと復元](#)
 - [Microsoft Exchange Serverバックアップと復元](#)

ベストプラクティス

次のセクションでは、リモートバックアップコピーの作成と再リンクによって、バックアップデータを失わないようにするお勧めの方法をご説明します。

リモートバックアップのコピーを保持し、再リンクする

Active Backup for Businessは、Synology NAS上のすべてのデバイスのバックアップデータを安全に保存します。ただし、1つのデバイスに生じた問題がインフラストラクチャ全体に影響することがあります。

自然災害、窃盗あるいはネットワーク障害により、データを問題することができない場合や、復元処理に時間がかかることがあります。そのため、異なるデバイス上で、および異なる場所で、すべてのバックアップのコピーをリモートで保存することを強くお勧めします。

データのコピーを3つ (オリジナルのコピー、バックアップ、別の場所にあるそのバックアップのコピー) 常に維持することが重要です。これは、[3-2-1バックアップ戦略](#)と呼ばれます。簡単に行えるよう、Synology NASではこの戦略を導入するために必要なものがすべて揃っています。

リモートコピーを作成

次の2つのDSMアプリケーションは、Active Backup for Businessのデータ、およびSynology NASからの設定を、他のデバイスあるいはパブリッククラウドにコピーするために使用することができます。

- **Snapshot Replication**。セカンダリSynology NASへのアクセスを持っている場合、このオプションが推奨されます。ABBのデータと設定を別のSynology NASに複製して、そのデバイス上のABBのタスクをすべて直接素早く再開することができます。
- **Hyper Backup**。このオプションにより、ABBのデータと設定を、ポータブルドライブ、ファイルサーバー、パブリッククラウドストレージなど、いろいろな場所にバックアップできます。ただし、復元するには、ABBのタスクを再リンクして再開する前に、まずバックアップを、動作中のSynology NASに復元する必要があります。

再リンク

複製またはバックアップのタスクを作成した後で、既存のActive Backup for Businessのタスクやバックアップデータの復元や再リンクができるようにしておくことが重要です (それがセカンダリNASや、パブリッククラウド、その他のストレージメディアにあっても)。

Active Backup for Businessのデータを **Snapshot Replication**および**Hyper Backup**を利用して、バックアップおよび再リンクする方法に関する詳細な手順は、次のチュートリアルを参照してください。

- [Active Backup for BusinessデータをディステーションのSynology NASにバックアップして再リンクする方法](#)

お使いのSynology NASが64ビット プロセッサを搭載し、DSM 6.1.7以降が実行されており、Active Backup for Business 2.0.4以降が実行中で必要なパッケージがインストールされていることを確認してください。詳細については、チュートリアル「**環境**」セクションを参照してください。

詳細情報

関連の記事

- [Active Backup for Businessについてのよくある質問](#)
- [Active Backup for Businessを実行するための適切なNASの選び方](#)
- [Active Backup for Businessを使用してWindows PCとファイルサーバー上の個々のファイル/フォルダをバックアップする方法](#)
- [ファイルサーバーの圧縮または暗号化の設定でバックアップタスクを作成する方法](#)
- [Active Backup for Businessで同時にバックアップできるデバイスの数はいくつですか？](#)

ソフトウェア仕様

パッケージの機能、コンポーネントおよび制限に関する詳細は、Active Backup for Businessの[ソフトウェア仕様](#)を参照してください。

その他のリソース

より詳細なステップバイステップのチュートリアルや画像情報は、[SynologyのYouTubeチャンネル](#)をご覧ください。そこでは、「Active Backup for Business」を検索することで、関連するビデオを見つけることができます。

さらに、[Synology Documentation](#)では、Active Backup for Business用の管理者ガイド、パンフレット、技術仕様書、ユーザーガイド、白書、およびその他を検索できます。